



思い出に出会える美術館



松戸市長が市の広報で絶賛し、柏市の教育長も見学に来たユニークな美術館が、新松戸のダイエー近くに開館して三か月がたつ。

人気のあつた挿し絵画家や絵本作家の作品を集め、「昭和の出版文化の華」として、原画や複製や掲載誌を展示する「昭和ロマン館」。SF画の先駆者といわれ戦記シリーズで軍艦など克明に描く小松崎茂、それに中原淳一と人気を二分し、少女の夢を描いた松本かつぢの常設が中心。

しかし、小松崎といい、かつぢといっても、昭和の不幸な時代を過ごした世代にはピンと来ないとこの時代には美術館では、この世代のために「もサーブ」に手落ちはない。

なぜ一美術館開館に市長が見学に来たか。これは市民活動の促進を図るためにできた特定非営利活動促進法（NPO法）によって出版美術文化振興会が運営しているからである。館長の根本圭助さん（柏市在住）は、幅広く活躍するイラストレーターで、思い出と出会える美術館にするという。



志村立美、岩田専太郎、初山滋、武井武雄の絵が豪華に壁に並んでいる。田代光、中一弥の挿し絵。キング、講談倶楽部、奇譚、富士、少年倶楽部、少女倶楽部、講談社の繪本がある。山中峯太郎「敵中横断三百里」や「黄金バット」も。三か月ごとに企画展で展示替えもあるようだが、昭和を駆け抜けて来た世代にもほっとする世界が開かれてくる。次の一句は松戸市長見学の即興らしい。

幼な日の挿絵のかかる夏館